

四自連だより

市民主体のまちづくりに向けて



田中新市長から四自連に向けて、メッセージをいただきました



四日市市長

田中俊行

四日市市自治会連合会の皆様をはじめ、自治会関係の皆様におかれましては、日頃から、それぞれの地区において地域の環境整備、防犯・防災活動、地域福祉活動など、幅広い分野でご尽力いただいております。心からお礼申し上げます。

さて、私は昨年12月に四日市市長に就任させていただきました。市政の舵取り役として、『みんなが誇りを持てるまち、四日市！』を目指し、「元気」、「魅力」、「安心」をキーワードとした3つの政策ビジョンを掲げて、さまざまな政策や施策に取り組んでまいり所存です。

今日では、急速な少子高齢化や景気の落ち込みなど社会経済の目まぐるしい変化に伴い、多くの課題が生まれ、市民ニーズも多様化しております。そうした中で、サービスの低下を招くことなく、より効率的に行政サービスを提供し、市民満足度を高めていくためには、市民の皆様の視点に立った、市民主体のまちづくりを進めていくことが重要であると考えております。

いずれにいたしましても、市政の主人公は市民の皆様です。その観点から、新しいまちづくりに向けて、市民の皆様が主体的に参画していただく仕組みづくりに取り組んでまいりますので、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、四日市市自治会連合会の益々のご発展、ならびに皆様の一層のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしまして、私のあいさつといたします。

四 自 連 活 動 の 足 跡

先進地視察研修

11月12日（水）秋晴れのお天気に恵まれ、常滑市を訪問し、古き良き町並みを保存しながら“まちづくり”を行い地域の活性化に励む地元の方々のお話を聞いた。

最初に訪れた“やきもの散歩道”は、ボランティアガイドのかたに説明を受け散策し、昼食は登窯広場の陶芸教室に使う場所で、常滑焼のお茶碗で食事をするといった地域の活性化の1つとしての試みに参加した。食事をした後のお茶碗は、おみやげとして持ち帰ることで常滑焼を広めよう！というアイデアである。

改良する点はいくらかあるようだが、視察に訪れた我々に意見を求め、胸を張って地域の活性化に臨む姿に好感が持てた。

午後からは、北部にある大野町を見学した。昭和初期に建築された和洋折衷の邸宅を、愛知造形大学の教授をされている岡館長が借りて、座敷をそのままイベントに使用し出会いと癒しの場として提供している。

大野町のまちは、距離が700mの小さなまちですが、老若男女交えてのまちづくりを行い、

町屋を改修した喫茶店やバーがあったり、高齢者、大人、子どもが“たまり場”として出入りできる場所がある。

夕食をした“恩波楼”は、童話作家新美南吉のおじいさんのランプで舞台となった大野町の、当時使用していたランプが展示してあり、当日はランプに燈を灯してくれた。

ご主人も、郷土を愛しまちを見守る一人として訪れる人々に、大野の歴史を伝えている。

住民が寂れたまちを、活性化させるのは簡単なことではない。大規模なまちづくりではないが、手作りのまちづくりの参考になった。



情報交換会

2月25日（水）文化会館にて情報交換会が開催されました。

各ブロック（6ブロック）の代表のかたに、パワーポイントを使って説明しながら発表していき、意見交換するスタイルで行なわれました。

参加者65名が先進的な活動に耳を傾け、情報を共有でき参考になりました。

発表地区	内容	発表者
中部ブロック（浜田）	阿瀬知川を美しくする会	野崎 譲二
東部ブロック（海蔵）	海蔵セフティネット協議会の活動	芝田 孝司
北部ブロック（下野）	下野地区のまちづくり	藤谷 克彦
西部ブロック（桜）	桜地区連合自治会 福祉について	渡邊 敏弘
西南部ブロック（四郷）	外国人との共生社会をめざして	朝妻 泰孝
南部ブロック（塩浜）	安全・安心・快適なまちづくり	伊藤 力 佐藤 誠也



中部ブロック（浜田）
野崎 譲二



東部ブロック（海蔵）
芝田 孝司



◀北部ブロック（下野）
藤谷 克彦



◀西南部ブロック（四郷）
朝妻 泰孝

西部ブロック（桜）▶
渡邊 敏弘



南部ブロック（塩浜）▶
伊藤 力 佐藤 誠也



市制111周年記念事業

平成20年度は、市制111年を記念して、自治会等の市民が提案した記念事業がたくさん開催されました。その一部をご紹介します。

	事業名	事業主体
1	福寿庵の開催	浜田地区福寿会連合会
2	虫送り	富田地区まちづくり委員会 賑わいのある文化の香るまちづくり分科会
3	先人の努力・苦勞が今に生きる瀬戸用水路 （歴史的遺産の再確認）	水沢地区地域社会づくり推進委員会
4	やさ朝の体操会	八郷地区連合自治会
5	市制111周年と合併51周年を祝う 鹿間町住民交流集会	四日市市鹿間町自治会
6	2008 キャンドルイルミネーション	キャンドルイルミネーション実行委員会（楠地区）
7	四日市市制111周年 in はづ	羽津地区社会福祉協議会
8	にこにこキャンドルナイトIN橋北	橋北まちづくり会
9	111本のキャンドルライト	富田地区連合自治会
10	立札型案内板の設置事業	富洲原地区社会福祉協議会
11	市制111周年記念「星空コンサート」	星空コンサート実行委員会（四郷地区）
12	笹川創設40周年記念事業	笹川地区協議会
13	音楽の夕べ	富田地区文化事業実行委員会
14	市制111周年記念協賛 「ふれあいフェスティバルin西日野」	西日野町自治会
15	設立10周年記念事業	桜ボランティア協会
16	市制111周年記念 常磐まつり ～地球にも、人にもやさしいまちづくり～	常磐地区社会福祉協議会
17	「111枚の写真でみる しおはま」	塩浜まちづくり協議会
18	111 四日市 イン しもの	111周年事業下野実行委員会
19	市制111周年記念事業 「グリーンパーク岡山 市民緑地指定4周年記念 秋まつり」	県地区まちづくり委員会
20	市制111周年記念事業 （中央小学校区文化会）講演とコンサートのつどい	中央小学校区文化会
21	『自然・ひと・ふれあい』～自然とふれあう八郷～	八郷地区活性化推進協議会
22	記念誌【ささがわ】発行	記念誌【ささがわ】発行実行委員会
23	111連凧と111周年大凧を揚げよう	富田地区連合自治会
24	三重西 ふれあい まち歩き	三重西まちづくり構想策定委員会

（3月現在）

各自治会の特色ある活動

中部【中央地区】

中央地区連合自治会
会長 三栗谷 祐 三

音楽をとおして文化豊かで楽しい地域づくり

平成20年11月22日午後、真新しい四日市商工会議所第一ホールでは、子供もまじえ、大勢の人々が水中写真家、中村征夫様の美しい水中写真と佐藤宏とその仲間達のオーケストラアンサンブルによる「ボレロ」「カルメン組曲」などの曲と、中央小学校児童ハートフル合唱団による「まっかだな」などコーラスを披露、そのすばらしい写真と音楽に会場全体が酔いしれておりました。

これは毎年恒例となっております、中央小学校区文化会が地区社協、PTA、子ども育成者会の協力を得て行われている中央小学校区コンサートであります。

この会の歴史は古く昭和63年、中央地区自治会、子ども会育成者会、中部東小学校PTAの有志が集まり、中央地区文化会結成、その後、同和地区の方も入られ中部東小学校区文化会となり、さらに、小学校の統合により、港地区が加わり、現在の中央小学校区文化会となりました。

昭和63年、第一回コンサートは旧中部東小学校体育館で「名古屋フィルハーモニーの室内楽の夕べ」からはじまり、その内容は多彩でソプラノ、交響楽、ハープ、フルート、マンドリン、中国琵琶、馬頭金演奏。またジャンルを問わずクラシック、タンゴ、ジャズ、シャンソン、カンツォーネなどがあり、本町プラザをホームグラウンドとして開催されてまいりました。

平成20年度は第20回記念コンサートであり、また、四日市市制111記念事業にも参加、四日市全域からご来場いただく事を見込み広い会場に変更、終了後のアンケートでは・水中写真家、中村征夫様の写真と講演に感動した。

・大人も子供も、とても大切な事を教わった。・とても質の高い一流の方の講演と音楽が聴けてよかった。・子供たちの歌に心が癒された。・皆さんの熱意が伝わり、お子様のコーラスに涙が止まりませんでした。などうれしい声をいただきました。

今後とも「低料金で気軽に本物の音楽」をモットーに地域密着した手作りコンサートを続けて行きたいと思っております。



各自治会の特色ある活動

東部【羽津地区】

羽津地区連合自治会

会長 森 源 八

住み続けられる安全・安心・伝統的な街はづ

「3大イベントで人の出会いと絆作り」

はづ地区は西には羽津山緑地公園、東はコンビナート群と四日市ドーム等の間で商・工・農業の盛んで利便性の優れており、また住環境も良く誰もが住み続けられる地区と自負しています。

本年は、市制111周年事業を当地区の3大イベントに協賛事業として行事の充実を図り「地域住民との出会いと絆」を求め、以下のとおり開催しましたので、一部ご紹介いたします。

【防災訓練】・・・9月7日（日）

「備えは万全」を合言葉に集合型から発災型へ情報伝達訓練、避難訓練(32団)、要援護者の安否確認、避難所開設(16団)、煙道体験、地域別避難訓練(16団)等実践とマニュアルの運営と災害の減免を訓練しました。

111周年事業

- (1) 土のう袋111個を早く積み上げるか競う
- (2) 111人のバケツリレー
- (3) 消防分団による放水競技と消防分団と市民防の協働によるくす玉割

【大運動会】・・・10月19日（日）

健康と体づくりで子どもからお年寄りまでのプログラムで競技が進められました。プレイベントと111人が羽津中学校から小学校までの間1.11kmを白バイ先頭にトーチランを実地しました。

啓発活動にも交通安全・安全安心・環境等を住民にPRし沿道からは拍手が起こりました。

111周年事業

- (1) トーチランの実施(子ども、障がい者等111人)
- (2) 情炎歌謡太鼓と踊り(四日市音頭等)(地元有志)
- (3) 白バイと写真撮影

【文化祭】・・・11月1日（土）・2日（日）

絵画、書道、手工芸、人権ポスター等々「活気に満ちた」多くの作品が展示され、素晴らしいの一言です。

2日目は「ふれ太鼓」を合図に保育園児・中学生の合唱、幼稚園児の踊り等で会場も盛り上がりました。

ほか企業愛好家による吹奏楽演奏、子どもの運転免許や落ち葉や木の实を利用したペンダントづくりなどのイベントも開催されました。

111周年事業

- (1) 111の数字にちなんだ数合わせ
- (2) 市制に関するクイズに答えて正解者はくじ引きで豪華な景品ゲット

自治会を中心に諸団体と連携し諸行事等で人の出会いと絆をサポートしています。また地区別にも「青色防犯灯の設置」「生活バス四日市の運行」等で個性ある街づくりも目指しています。



各自治会の特色ある活動

北部【富洲原地区】

富洲原地区連合自治会

会長 水谷 武彦

安全安心・住みよい富洲原

富洲原地区は、四日市市の中でも一番北東に位置し、明治22年（1889年）に富田一色村の「富」、天ヶ須賀村の「洲（須）」、松原村の「原」をとって「三重県朝明郡富洲原村」が誕生したのがそのスタートです。産業としての漁業、漁網業、紡績業、製網業の盛衰を経て現在の町並みとなっています。

面積は2.04km²であり、約9,500人が生活しています。全体で53の自治会があり、富田一色地区に19自治会、天ヶ須賀地区に18自治会、松原地区に16自治会あり現在でもそれぞれの地区で連合自治会を組織しています。細分化されていますので、自治会長が町内のいろんな事情を掴んでいる点が強みです。

また、逆にそれぞれの地区にある伝統のまつりが、固有の文化でもあるので、ともすれば「富洲原という核」に対して遠心力が働き勝ちであり、いかにして安全安心な住みよい富洲原のまちづくりに向けて求心力を働かせ、なるほど我がまちは変わりつつあるということを実感してもらうかが課題です。

防災・減災という極めて一致しやすいテーマですら分離独立で行きたいとの意見の克服を経て平成19年に自主防災隊を隊組織で結成しました。指揮系統をはっきりさせるためにあえて連絡協議会方式はとりませんでした。

“老いも若きもみんなで助け合い”という自助・共助の考え方を広めていこうとするこの組織は、総合防災訓練、タウンウォッチング、防災講演会と様々な取り組みを始めました。昨年は自治会に対して住宅用火災警報器を安価にあっせんするという逆提案をしました。取り付け困難な高齢者宅は市民防災隊が取り付けるとい申し出です。

自治会は素直にこの話に乗りました。何を中心においてまちづくりを進めるかを議論する土壌はできつつあります。

地区には求心力という点では先行している社会福祉協議会、人権教育推進協議会や各種団体があります。一層の連携を図りまちづくりを推進していきます。



人にやさしく
住宅用火災警報器の取り付け支援



ダメ。ゼッタイ
薬物乱用防止キャンペーン実施

各自治会の特色ある活動

西部【川島地区】

川島地区連合自治会

会長 加藤 由弘

かわしま まちづくり宣言!!

今年度から川島のスローガンを発展的に一部変革することとなりました。

従来の「安全・安心のまちづくり」「絆の強い元気なまちづくり」に加え昨今の環境問題に目を向けるべく「環境を大切にすまちづくり」を取り込み新しくなったスローガンを合言葉に川島の町を「住んでよかった町」に向けて住民が一丸となって取り組んでいます。

この一環として10月に「かわしま まちづくり宣言」が採択され、地区の運動会、文化祭など各種行事で参加者へポスターや啓発グッズで一人一人の意識向上を図り「地区の環境は地区でまもる」まちづくりを身近な事からコツコツと推進しています。「わたし達はゴミのポイ捨てをしません」「わたし達は犬のフンは持ち帰ります」を宣言し、川島の町からゴミ、フンのない美しいまちづくりを目指しています。

宣言と同時に湯ノ山線の川島駅に駅長さんのご好意により朝夕の通勤通学時に最も目立つ改札口近辺に宣言書が掲示され、皆さんへの周知に大変役立っています。

ゴミゼロを目指しお持ち帰りを推進した文化祭では一部の心無い人達の心にも響き、昨今に比べゴミの量が激減し、「やればできる」と確信でき着実に「美しい町・かわしま」に変身しようとしています。



各自治会の特色ある活動

西南部【水沢地区】

水沢地区連合自治会

自然と環境との調和あるふるさとへ

水沢地区は、鈴鹿山脈の裾野に広がる内部川扇状地の台地にあります。気候風土と水に恵まれ標高300mにあるお茶畑は、伊勢茶の本場で、全国3位の生産地です。また花卉の生産も盛んで、シクラメンをはじめ四季折々の鉢花や観葉植物が全国へ出荷されています。

当地区では、300年の歴史がある用水路「瀬戸用水」を利用して鈴鹿山脈の麓から田へ水を引いています。毎年4月第一日曜日には地域一斉で用水の井汲をし、田植えの準備に取り掛かります。5月、初夏が近づくと辺り一帯が緑一色となり、8月近くまでお茶の作業が続き、地域のまちづくり行事は9月以降となります。秋には西の山も紅葉に染まり、地元の人々が大切に守り育ててきた「もみじ谷」周辺から宮妻峡までの山道は、紅葉狩りの行楽客で大変にぎわい、「もみじ祭」を開催するなど地区の活性化へつなげています。またこの頃には市主催で全国サイクル・スポーツ・フェスティバルが開催され、当地区内の一般公道をコースとしたこの大会には、全国から一般の方や青少年の方が多く参加され、地区をあげての応援やおもてなし、案内等で盛り上げています。

先人たちから引き継いだ豊かな自然の財産を守るため、家庭雑排水の浄化に農業集落排水事業を地区全体で立ち上げました。一部供用を開始し、これに併用して処理水を水田補充水として再利用する工事も進めています。事業が完成すると、自然環境と生活環境とが調和して、上流（水沢地区）と下流（伊勢湾）が一体となったまちづくりへのイメージアップにつながればと願っています。



全国サイクル・スポーツ・フェスティバルでは、地区あげて選手の皆さんを歓迎しています。
(水沢三本松町公民館)



平成17年、東海農政局から水沢地区が「東海美の里百選」に認定されました。

各自治会の特色ある活動

南部【内部地区】

内部地区連合自治会

会長 堀 保

防災と環境に取り組む まちづくり

内部地区は四日市の南端に位置し、戦後住宅地として人口が急増した地区です。以前は旧東海道が通っている農村地帯でありましたが、四日市市への工場の立地にともない、その社宅等、宅地化が進み、四日市市のベッドタウンとして発展し、多くの自治会を抱える組織となっています。東海道が1・2次の改築を経て、国道1号線として地区内を主要道路として通っています。現在でも、東西交通の要衝として多くのトラックが域内を通行しています。

東西交通の要衝は古代からであり、古事記には『其地(そこ)よりややすこし幸行でますに、いたく疲れませるに困りて、御杖を衝(つ)かして、ややに歩みたまひき、かれ其地(そこ)に号づけて杖衝坂(つえつきざか)といふ。』と倭建の命の東征に書かれています。

この地域は、海洋型の巨大地震が近いと言われていています。このため、当地区でも、自主防災組織の充実に努めてまいりました。連合自治会組織とは別に内部地区自主防災協議会を立ち上げ、委員諸氏の精力的な努力で『防災マップ』の作成をはじめ、『家庭と地域の防災』『地域がめざす防災』『避難所運営マニュアル』等の冊子も纏めてきました。また防災避難訓練も6月の『住民避難訓練』12月の『初期の指定避難所運営訓練』など積極的に行っています。

内部地区は、道路に関する要望について、自主組織を結成のうえ、四役が中心となって現地調査を行い、事業の公平性と効率的な投資に取り組んでいます。

内部地区社会福祉協議会事業の諸事業に対しては、当連合自治会はその主力団体として陣容・活動の両面に参画していますが、その主要事業である『内部川清掃』『文化祭』には、内部地区の『自然環境と文化』を継承して行くために、組織をあげて協力しています。

環境問題についても環境未来塾の成果をより確実なものとしていくために、エコ提言の実行、天ぷら廃油の資源化再利用システムの推進等々進めています。とくに資源化再利用のなかでは、生ゴミの有機肥料化への取り組みとして、実験農地での実証を経て、その利用普及に繋げるよう進めていきます。



史蹟 杖衝坂



道路要望箇所の現地調査

地区市民センターの改革について

—— 中間経過報告 ——

地区市民センター改革推進協議会では、2月10日(火)の地域団体部会で、今後の市の取り組み(案)として

【まとめ】地区市民センター改革推進協議会において、23の地区市民センターが市民に親しまれた本市の財産であることが改めて認識された。今後、少子高齢化等といった社会情勢に対応するためにも、23地区市民センターを維持していく。

また、住民の生命に関わる防災・防犯活動や地域福祉活動の拠点、また地域活動への支援といった機能を十分に発揮できるような資質の向上を図っていくとともに、職員配置について、機動性の発揮しやすい若年層の積極的な登用を検討していく。

しかしながら、厳しい財政状況の中で従来型の財政出動や行政運営は困難であることから、今後は、地域でできること、行政が行なうべきこととの役割分担をより明確にしていくとともに、より効率的な運営に向けた方策を検討していく。

地区市民センターが担う機能については、時代に即したあり方を利用者である地域住民の意見を聴きながら、今後も協議していきたい。という説明であった。

《編集後記》

今回は、新市長からの四自連に対するメッセージをいただきました。前回に引き続き、平成20年度の四自連の主な事業報告と、各ブロックの中から、特色ある自治会の活動を掲載し、会報を通して四自連の活動を多くの方に理解していただきたいと思います。

今回掲載できなかった地区の活動は、次回以降に掲載する予定です。

《編集委員》

中部ブロック：堤 明	東部ブロック：水谷重信
北部ブロック：服部武一	西部ブロック：渡邊敏弘
西南部ブロック：豊田早男	南部ブロック：野崎一美

四日市市自治会連合会事務局

〒510-8601 四日市市諏訪町1-5

TEL・FAX 059-354-8287